

1 研究主題

自尊感情や自己肯定感を育む、人権学習の充実と学力の向上

2 研究主題設定の理由

本校の多くの生徒には、自分に自信がもてなかったり、人間関係に不安を感じていたりする状況が見受けられる。アメリカの心理学者ジェームスは、学習行動において、自尊感情が高い人は、困難に出会っても粘り強く努力するが、自尊感情が低い人は、すぐにあきらめてしまう傾向があるとしている。

そこで、本校の特色である生徒会を中心とした「3A（あいさつ・ありがとう・あたり前）」の取組や実行委員会制度の活用、人権学習を通して、自尊感情・自己肯定感を育成し、さらに学力の向上につなげようと研究主題を設定した。

また、これまでの「学習習慣の形成」に関する研究から、学習習慣の形成には、自尊感情・自己肯定感の育成が重要と考えており、指導やかかわりの留意点として、さぬきの教員「授業づくりの三訓」や「かかわりの三訓」に加え、生徒には「粘り強く努力すること」「あきらめないこと」を、教職員には「ほめること」「感情を安定させること」を掲げている。



3 研究の具体

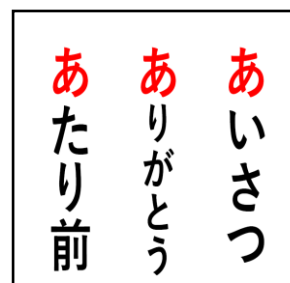
- (1) 生徒会を中心とした「3A」の取組 (2) 実行委員会制度の活用
(3) 人権学習の充実（研究発表「過去は変わらないけど、未来は変わる！」より）

【生徒会の自発的な実践活動】

生徒会活動では、「3A」の呼びかけと全生徒での実践、生徒会朝会での各委員会の啓発活動、ボランティア活動など、自発的な活動を通して、個々の生徒の自主性及び社会性の発達や個性の伸長を図った。

【人権学習の充実】

人権学習の内容や課題を話し合うことで、取組の方向性を共有し、人権・同和教育を系統的に進めた。人間の尊厳を理解し、未来を信じ、自分の未来に向けて進んでいこうという強い決意をもたせるとともに、庵治町で生まれ育ったことに誇りと自信をもち、人権課題と自分自身とのかかわりを生活課題に即して学び、人権課題の解決のための行動力を育む学習を進めた。



4 研究の検証及び改善の手立て

学校評価アンケート、hyper-QUテスト、全国学力・学習状況調査のデータを活用し検証を行った。

- (1) 生徒・保護者対象の学校評価アンケート結果からの分析（令和3年7月実施：1～3年）

特に評価の高かった項目は、生徒が主体的に生き生きと活動している取組に関する項目や、学級や学校を好意的に捉えている項目、あいさつの励行であった。調査対象の現3年生では、「物事を最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」「あいさつができていますか」「生徒会活動や委員会活動、係り活動に取り組んでいますか」が、評価の高かった項目である。

- (2) hyper-QUテストからの分析（令和3年6月実施：3年）

生徒アンケート評価の自尊感情の項目は、プラス評価に推移し、前回比で、+9ポイントである。

- (3) 全国学力・学習状況調査からの分析（令和3年4月実施：3年）

全国と県の比で、平均正答率は国語と数学で高い傾向であり、無解答率は大きく下回り、高評価である。

生徒会の自発的な実践活動の成果としては、生徒主体の活動で主体性・自主性を、「3A」で基本的な生活習慣を養うことができた。生徒各自が集団の一員としての役割を自覚し、「自発的な実践活動」を通して学校生活の改善が図れていること、規律ある生活とよき校風を培うことができていることがあげられる。

人権学習の充実の成果としては、生徒は、間違っても、失敗しても支えてくれるなかがいると、何度でも頑張ることができてきていることがあげられる。

本研究は、令和元年度から段階的に取り組んできたものである。令和3年度に入り、学力の向上が結果として表れ、教職員が、生徒が自信をもつこと、もち続けるということが重要であることを深く認識できたことも、本研究の成果と考えている。今後も、学校組織マネジメントを工夫し、改善の手立てとしたい。